

平成28年度

東部地区社会教育関係委員・職員研修会

平成29年1月26日（木） 加須市 大利根文化・学習センター アスタホール

本研修会は、東部地区各市町社会教育関係委員及び社会教育担当職員等を対象に実施する研修会です。研究テーマをもとに、各市町の実践発表や協議等を通して、社会教育関係者としての活動の在り方を探り、今後の社会教育の充実に資することを目的として実施しています。

今年度は、126名が参加し、貴重な実践発表と活発な意見交換が行われ、生涯学習・社会教育の充実・発展の契機となりました。



研究テーマ

学びの循環のある地域社会について

講演

演題：「社会教育委員に就く
—どう心し、どう考え、どう動くか—」
講師：茨城県社会教育委員連絡協議会 会長
儘田 茂樹 氏

○社会教育委員の声

「社会教育委員の仕事内容がよく分からない」や反対に「充実していた」という意見がある。

○社会教育委員の活動の分類

説明・報告型→年度初めに課（事務局）から「今年度の事業」「補助金交付計画」、「年度末に事業報告」を聞き、了解、承認する。

諮問・答申型→年度初めに課（事務局）から「諮問」があり、調査研究や協議を経て「答申」をまとめ、教育長へ答申する。

提言・広報型→委員がテーマを決め、課（事務局）の助言を受けながら、調査研究や協議を自主的に運営・活動する。教育長に提言し、提言文をHPや広報紙に掲載して提言を広めることが多い。

○社会教育委員の望ましい姿への提案

- ・社会教育委員の基本の〈立ち位置・姿〉を知ること。
- ・社会教育委員は、「審議会委員であること」の理解を深めること。
→的確な〈質問〉や〈確認発言〉ができる力を持つことが必要。
- ・社会教育委員は、「市民と行政の橋渡し役であること」「市民の声を行政に届ける役であること」の理解を深めること。
- ・自分の市町の会議のあるべき姿に対して、望ましい姿を描くことができるようになること。



○社会教育委員の活動を楽しく・活性化するための提案をしてみませんか

- ・会議の前に、委員と担当者で事前打合せをやりませんか。
- ・委員の名刺、机上名札、胸章ネームプレートをつくってもらいませんか。
- ・委員間、委員と担当職員間で、もっと交流を深めませんか。
- ・市内の社会教育施設を視察（見学）しませんか。
- ・会議数を増やす提案を担当職員にお話ししてみませんか。

実践発表

羽生市「つなぐ、つどい、支える学びの循環」

(概要)

- 学び、伝え、つなぐ、かかわり、支え方はいろいろある。
- 未来を担う子供たちへ学んだことや文化をつなぐ機会を設定しながら、押しつけにならないことが大事。
- 1人学びからグループ学びへ、そして行政の支えがあると、より広がっていく。
- 高齢者の持つ知恵の生かし方で、まちが元気になる。



春日部市「春日部市における生涯学習の推進について～私の生涯学習の歩み～」

(概要)

- 指導者としての市民もまた学習者である。
指導者として活動する市民も学習に参加し、指導者としての資質向上を目指し、新たな学びを得るため活動の場を広げる。
- 学習者が将来の指導者になる。
「市民塾」「はるがく帳」を活用し、学びを深める中で、自分の得意分野を見つけたり、伸ばしたりする。



吉川市「オシゴト ヒトゴト ワタシゴト ママゴト パパゴト ジブンゴト 地域を「ジブンゴト」にすると「まち」はドンドン楽しくなる」

(概要)

- NPO 法人よしかわ子育てネットワークは、「親と子どもが育ちあえる体験の場の創造」「子育ては特別なものでなく、常に隣にあるものである状況をつくる」に取り組んでいる。
- 自分で未来を変えられると生きやすさにつながる→「ジブンゴト」にする。
- 「お客さんにしない」「当たり前からの脱却」「ありがとうの循環社会」が大切。
- 「子育てを支援するということが何につながり、どうしていったらいいののかの問題意識を各部署と目的共有していくことが課題。



協議のまとめ



Q：(羽生市) 夏休み子どもクールシェアで苦労したことは。

A：4月に推進会議を立ち上げ、5月から事前の会議を始めた。学年を縦割りにしたグループをつくり、担当の役割分担を決め、各自が役割をこなした。

Q：(春日部市) はるがく帳はどの位普及しているのか。また、発表者は、はるがく帳があることで、生涯学習活動が継続されたのか。

A：H28,12月末現在 3,057冊を配布。利用した人に配布している。
承認されることは大人でも嬉しい。活動を記録することが承認につながるため、はるがく帳はきっかけになっている。

Q：(吉川市) 子供がいない家庭への支援はどのようにしているのか。

A：団体の活動に賛同する方への支援をしながら、活動を巻き込むスタイルで行っている。
プレママ等は対象だが、独身の男女は対象としていない。今後考えていきたい。



指導助言

- ・アイデアに満ちている。多くの人に参加できる内容の事業で、広がりがある。
- ・活動の底に「ボランティアの心」がある。社会にプラスになることをしている。
- ・誰もが自分の願いを持っているが、形にできず、自分の中で終わってしまうが、発表者3名は、形にしている。

《羽生市の発表について》

- ①大勢の方を巻き込む事業で、リーダー役や推進役として巻き込んでいることが良い。リーダー役を頼まれた側にも良い影響があり、事業が盛り上がる。
- ②宮澤章二顕彰会は地域の事柄を題材としてとても良い。郷土の財産である。また、子供から大人まで全年齢層を巻き込んでいることも良い。
- ③図書館を利用した取り組みも良い。本を読むだけでなく図書館外の活動に取り組んでおり、広がりがある。

《春日部市の発表について》

- ①社会教育委員の組織的な活動が良い。提言型の活動が素晴らしい。
- ②「はるかく帳」はヒット商品である。記録は自身の生涯学習の財産となる。事業に参加して終わるのではなく、1行でも書くことは効果がある。真似をしたほうが良い。
- ③市民がつくる講座が素晴らしい。市民がメニューをつくり、講座名を市民がつける。市民をリーダーとして巻き込んでいて良い。

《吉川市の発表について》

- ①当事者として「ジブンゴト」を形にしたことが良い。誰もが持っている悩みを地域に広げている。
- ②本当に望まれる活動をしている。全ての親が望む内容を形にした。
- ③地域の方とのコラボレーションが良い。資料から広がりや地図が見える。地域の方と対等の関係を築いているため、やわらかなつながりとなっており、長くつながる関わりとなる。



【今後について】

- ・学びの循環とは、教える側（情報を提供する側）と受ける側（学習する側）のどちらかだけでは循環しない。教える側と受ける側を交互に活動すると良い。
- ・何歳になっても願い（健康、知識、学び灯）を形にする少しの努力をするのが良い。そのために、市の広報誌、インターネット、口コミ等で情報を得て行動する。各自のペースで良いので願いを形にする。
- ・社会教育委員はコーディネーターである。「人」と「人」をつなげるだけでなく、「人」と「情報」をつなげるコーディネーターもある。誰かに情報を提供することもコーディネーターである。

成果と課題

本年度は、研究テーマを「学びの循環のある地域社会について」に変更し、講演・実践発表等を通して、社会教育の意識の高揚、資質向上のための貴重な研修となった。東日本大震災以降、地域住民が主体となったまちづくりや人と人との「絆」を深めることの大切さが強く求められている。そのような中、自らの個性や能力を伸ばし、社会に積極的に参画する地域住民の活動を支援するためには、社会教育に携わる関係委員や職員の役割が大いに期待されている。そのため、活動のあり方を具体的に発信できる人材の育成は今後も必要である。